

	人間ドック健診当日の問診票を 活用しているポイント (活用できている点)	人間ドック健診当日の問診票を 活用しているポイント (活用できていない点)	本来どうあるべきでしょうか				3、その他4つの項目以外で 話題になったこと
			①困っている点	改善するには	②上手くいっている点	成功の秘訣は	
あ	①安全・事故防止 ・胃バリウム前の注意、処置薬の選択、服薬チェック、アレルギーチェック、トレミ時の服薬情報 ・検査スタッフ間の共有、ドック外来間の共有 ・治療中のものか確認、結果判定、主治医へ相談する。Dr判断、既往歴の把握、施設を利用するきっかけ ・生活習慣に関連した項目を拾える。食事情報、気にしていること、指導に関わること、指導の既往歴、運動指導、生活状況の把握、個人情報、喫煙、飲酒情報	・当日検査に影響する疾患が抜けることがある ・既往歴がわからないことがある ・結果判定 ・自覚症状が多岐にわたり、結果表に記載しているだけ ・問診をよるスタッフによってどこまで問診を取るか規則がない。	・当日検査すること前提できている→できない時は？ ・朝受付時にわからない ・当日問診チェックするので、その場で検査ができるかを判断 ・検査しないと健保からの補助がでないことがある	・お薬手帳を持参してもらう ・事前にわかればいいが、その余力はない ・学会基準で検査可否基準であれば良い	・検査できる基準が決まっている ・検査可否は先生から話している ・問診送付の時点で検査項目にあわせた案内を送る	・健診を受ける際の判断基準がはっきりしていれば当日問診確認の上で重要 ・初回受診者に対しては問題が多い	
い	④つ保健指導に		・問診票が保健指導に活かされていない	・問診を活かした個別の対応をして結果票などで補足をしていく ・掲示物でポピュレーションアプローチ	・特定保健指導の標準的質問表の保健指導の項目により「はい」と答えた方を対象		
え	②情報共有		・受診者に問診をする時間が少ない ・コメディカルが問診の情報をいかしていない	・情報を共有するように努める			
お	②情報共有 ・安全事故防止 体調不良で来た方の確認ができる既往歴、喫煙状況、内服薬の確認し安全に行えるよう活用している ・情報共有 ドクターが診察時にいかす、結果、面接にもいかす ・保健指導 生活習慣を知り指導にいかす		・問診票の記入漏れが多い ・問診(情報・状況の確認)をする個別のブースがない。 ・症状に合わせて検査の可否の判断する際に問診票が十分にいかせてない ・受診者に直接声かけする場面があまりない ・短い問診の時間の中で検査の問題や内服状況等多く確認しないとイケない。	・何かある場合Drに確認できるよう、問診時に得た情報を診察時に伝達する	・問診を始めにすることで、安全にその後の健診ができる。対応もそのときに集約できる ・問診票をいかしながら、本人の言葉と共に状況を聞き出せている。		
か	②情報共有		・本人認識とスタッフの必要としている情報に相違がある ・何のための問診なのかということ伝えきれていない	・スタッフ間で問診の取り方を統一する ・問診を取るタイミング→採血の時はやめた方がいい ・前回の情報があると良い ・わかりやすい言葉で聞いていく(かみ砕いて) ・オープンクエスチョン	・問診票、問診を取る際、重複した質問があると落ちが少なくなる。 ・前回の情報を拾って次に繋がられている(接し方も個々で変えられる) ・受診者も安心して受けることができる	・情報をきちんと管理して、情報共有できること ・NSが問診を取り、注意事項を技師さんなどにわかりやすくみえるようにパソコンの画面に出すようにしている ・受診者に対して接遇も含め安全管理を行っていることを伝えられるよう考えている	安心して受けられると思っていたことが大切
き	②情報共有		・受診者が負担にならないための問診票を作っているが、記入量が多い ・他部署への報告は？安全に受けていただけるために	紙に記入してあるものは目立つように印をつける 共有するものをわかりやすく記入しておく OCRなどを医療できるようにすれば良い。診察メモ欄などを利用して伝え合う	・最初問診の確認がNsが行い、本日の検査が受けられるのかの確認をする ・前日に各部署の代表者が集まってミーティングをする	・マニュアルがきちんとあること ・共通認識ができていること	最後にスタッフ数がどのくらいなのか？ 他施設のことを知ることで良かった
く	②情報共有 ①検査が安全に受けられるかどうかの確認 ②新設を行う上での情報に役立つ	②前回の結果の反映ができていないことにより、何度も同じことを聞いてしまい悪循環である。 ④保健指導を受ける上では問診の情報だけでは足りない。	問診票のチェック、記入漏れが多い、時間がかかる 他職種で共有ができない	各検査ブースでその都度確認をしている(時間の短縮) 前日のミーティングや事前の情報としてそれぞれの部署に伝える。	人手だけで足りないところは、システムの活用		

		人間ドック健診当日の間診票を活用しているポイント (活用できている点)	人間ドック健診当日の間診票を活用しているポイント (活用できていない点)	本来どうあるべきでしょうか				3、その他4つの項目以外で 話題になったこと
				①困っている点	改善するには	②上手くいっている点	成功の秘訣は	
け	②情報共有			①問診票の受診中(治療中)経過観察中などあいまいな表現が多い ②内服薬名まで入力している、チェックが大変、分類だけで良いのでは？(薬品名まで細かく把握する必要があるか) ③Drとしか情報共有ができない(他職種の方が問診票を見てくれない) ④問診票に記入されていない場合がある	①判定に関わり、施設毎違う ②Drと検討、ほとんどの施設は分類まで把握しているが特に問題ない ③前日に共有したり、伝達する人がいる、PC上で情報共有している ④問診するタイミングが様々で、問診が最後になることもある。看護師が最初に行う必要がある。			
こ	①安全・事故防止	問診票の上に禁忌の検査を記入(アレルギー、パニック障害、授乳中)ペースメーカー、妊娠中、生理日		・本人からの情報が十分把握できないこともある ・生理日記入してもらう時になぜかと聞かれることあり ・禁忌の人を安全に行うことができるか。 ・看護師、保健師による、判断も違う、基準の統一性 ・Drによって対応に差がある ・混雑時の実施に時間に限りがある ・障害者、認知症、採血、両乳房オペ後	・問診の係がいる ・問診票からの情報を手順に沿って行う。 ・それ以外の情報は聞き取り ・DM、内服してきた採血すぐ確認、ブドウ糖持参させている→低血糖注意の表示をする	禁忌の検査がわかるように表示している。 アレルギー、パニック障害、授乳中、問診票に表記して誰でもわかるようにしている。 GF、絡口、妊娠中の確認	短時間にもれがなく安全に検査ができる。 ・血圧が高い場合 ・マンモ撮影時の確認 ・MR(眼内レンズ、ペースメーカー、インプラント) スタッフが統一性を持つメモをわかるように表示している。スタッフが同じレベルを共有、事例の検討、事前のカンファレンス、マニュアルが整備されている。次の健診に生かせる。	
さ	②情報共有			問診票自体の問題 ・意味を理解していない、記入されたものが適正な答えになっているのか？毎年同じことを書く量が多い。 ・問診票のチェックに時間がかかる。毎年同じことを聞いてくると苦情が多い。受診者さんの負担が多い 他職種との情報共有ができていない。問診票が活かされていない。	問診票の改善が必要(質問項目を減らし、指導になった場合のみ詳細な問診をとる) 朝の問診では安全・事故防止に関することだけ確認する(時間配分の調整)	保健指導には活かされている		
し	④保健指導につ			・データの改善が見られない場合、保健指導フォローを続けるかどうか迷う ・初回面談と積極とはどうわけているか。スタッフを決めて指導を続けるか ・問診票と次年度のリピーターにはどうしているか？また、同じものを書いてもらうか		・半年後に簡易的な検査のみ行い、フォローしている ・初回面接と積極的支援に分けて、改めて対象者のタイプを調査して望む(当日)	・後日よりは当日に実施する ・3ヶ月後、同じ施設で無料で検査をしてデータを出す ・問診時重点を絞ってやっている	
す	②情報共有	内服の内容、様子を活用、既往歴、状況の判定(かかりつけDrなど)妊娠の状況→事務→看護職胃切状況でGF、GIの判別ピロリ菌歴の確認→除菌の判断体内菌属、禁忌ライフサイクル対応注意の内容判定に活用健診実施の+αにしている禁煙外来につなげる事務の方→医療間に情報が伝わる遺伝疾患の判別のため家族歴アレルギー宿泊ドックの食事の検討スキャンし、個人毎に保存することで対応に有効検査漏れをなくす	情報生かし切れてない記入もれがある記入に正確さがなく(欠ける)	記入もれ Drがチェック→看護がチェック→事務がチェック(所要時間確認:3分、20人で2時間など) OCR→最後にスキャン ・OCRと個人の既往確認票作成 ・昨年のは印字、→変更は事務等に対応 ・誤発送の予防→ホッチキスで止まって出てくるシステムも大切 ・情報が多くても困ってしまうことあり ・外来との兼ね合いで時間が限られる	・情報の共有→メモ、PC情報(全員に飛ぶ) 最も大切になるのは「コメント記入」→書くところを決め、そこだけは見る！という共通認識 ・システムの選択も重要(人の手を介さない) システム化も大切だが、最後はマンパワー ・OCRを活用し、記入漏れを予防	誤発送の予防(システムの検討)、昨年のものが印字される。個人票を別に作成することでOCRと併用して活用する	マンパワー一言記入システムの選択	
せ	②情報共有			・現病・既往歴が正確に疾患名が把握できない。コードがない ・受診動機を共有できない	問診票をファイル化し現場で共有疾患のコード化	問診票をファイル化して、別紙として家族歴Drの説明、指導、対象者は結果待ちの間に生活面のアンケートを取る。レーダーチャートの発展させ指導に運用	問診検討WGマニュアル化	

		人間ドック健診当日の間診票を活用しているポイント (活用できている点)	人間ドック健診当日の間診票を活用しているポイント (活用できていない点)	本来どうあるべきでしょうか			3、その他4つの項目以外で 話題になったこと
				①困っている点	改善するには	②上手くいっている点	
そ	②情報共有		結果につなげること ・業務歴 情報共有 ・事務、看護職、看護職に必要な情報が来ない 保健指導 ・40歳以下の方 全体 ・不要な事項、不正確な情報	【PC】 ・PC共有しているはずだが、いつ誰がちゃんと見ているのかわからない ・当日得た情報の共有の仕方 ・情報の整理(蓄積の方法、不要な情報) 【紙】 ・書いてもらう量、時間の問題 ・事務で問診をとっているところも	・PCでいろんな場所で、他職種が共有できるように	【紙】 口頭で聞く、看護職で問診を必ずはさむ。事務リーダーが検査項目(中止もとりまとめ) 検査の順序大切。 経験のあるパートでない看護職で実施する 毎年ご本人に書いてきてもらう。前年の問診票と見比べる。赤字で書く 【PC】 大まかな情報項目にわかるPCのみに頼らず電話連絡	
た	②情報共有	・胃カメラに活用 ・事前に郵送しているので活用 ・PCに入力 ・既往歴、たばこ、記入	・毎年同じことを書いてもらっていること ・未記入のところ ・身体的障害、消毒、案内係に活用 ・婦人科、健診、毎回お産の回数 ・老人に内服の確認	・リピーターに毎回同じことを記入してもらわなければならない ・Drとの共有がない ・薬品名を記入してもらう必要がない ・記入項目が多い	・メモ書きなど記入、PCに記入	部署各に確認し、情報共有	マニュアルを作成
ち	②情報共有	医師診察時の情報、時間短縮 自覚症状、既往歴、渡航歴の確認 各検査時の情報共有 安全・禁忌事項の確認	次回、問診時、前回の自覚症状や異常を見落としていることに気づくことがある。 保健指導へ繋がっていない	疾患情報が他部署と共有できていない	他部署との共有のパソコン画面あり ☆、△マークをつけて各部署が必要な項目を確認、共有できる		
つ	①安全・事故防止	・病歴などで検査に対しての注意 ・過去に受けた検査時の情報について(採血時、胃カメラ、胃透視、アル綿禁など) ・問診票を保管することで、前回の検査時の情報を事前に把握できる	・問診記入もれないか、事務確認→Dr問診とる ・問診未経験のNS、安全に検査回るための取り方に悩んでいる ・前回の病歴など内容が把握できていない。 各検査のスタッフが内容確認、その場でDr確認、 Drが問診を見るのは最終の診察時 注意事項を問診の項目に盛り込む。 Dr確認したい時は、胃透視前に診察など順番をコントロール 注意事項を回す連絡網(TEL) 誤えん、受診につなげる方法	・問診、医師がとっている。事務が問診チェック(記入されているか)→不十分な内容の問診 ・受診者が聞きたい点をDrに聞けているか ・前回の内容が把握できていない。 ・前回の情報が活用できていない	前日に、前回の注意事項を収集して各部署に周知する	自己触診の仕方を教えている	
て	①安全・事故防止			①皮膚病をチェックできていない(感染症のチェックなど) ②当日の発熱等は受付で自己申告	①「院内感染に関わることなので、御協力お願いします」と伝え、感染症の有無を聞く(項目も作る) ②受付の時点で体調確認を行う	・薬のアレルギー有無やDM(インシュリン等)の有無 ・既往歴やアレルギーの有無の確認 ・検査がスムーズに行えるように薬や受診者さんの情報を把握している	
と	②情報共有	①内服薬や通院先を確認できる 注意する項目、説明が記載されている 当日の体調管理 ②特定保健指導でシステム化している 健診内容でスタッフ間の連携になる 検査の為に情報提供 ③結果の判定に役立つ オプション希望の有無 ④診察後の保健指導にも役立つ	・NSの力量、判断力で収集情報が変わる ・前回受診時のデータが判定されていない ・22項目の間診が取れているが、上手く活用できていない	・問診を個別に行うスタッフがいない →検査担当部署に、コピーを配布している状況 問診が長くなるので担当に渡すことも考えたが、安全面でどうかでやめた。 ・対象者の年齢やバックグラウンドで変わる ・スタッフが重要なことを聞き取れていないこともある (受診者が自分から言わなかったり病気と思っていなかったりするので、問診に時間がかかってしまう)		・前回のデータをシステム上にあげている ・チェックリスト(専用の)がある(事務、保健師、管理栄養士、担当者がわかるように)	高齢者が多く、問診内容の理解が乏しい